

# 第 13 回 木津川上流河川環境研究会

## 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時：平成 20 年 2 月 7 日（水） 13：00～15：00

開催場所：OMM ビル B1F ギャラリー

### 【出席者】

委員：8 名

事務局：木津川上流河川事務所（3 名）

河川環境管理財団（2 名）

その他：木津川上流河川事務所（3 名）

### 【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 研究会前回議事の概要
4. 議事  
「木津川上流河川環境目標の検討」：流域環境の変遷と課題
5. その他
6. 閉 会

### 【議事項目ごとの審議結果】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 研究会前回議事の概要  
参考資料-1「第 12 回議事要旨(案)」を用いて、事務局より前回研究会の議事概要について説明が行われた。
4. 議 事  
資料-1「木津川上流河川環境目標の設定に係る検討」を用いて、事務局より説明が行われた。

#### <討議内容>

- (1) 河川環境目標の検討方針に関して
  - a. いろいろな方から頂いたお話の中で、木津川がその前後で変わったこととして、①大正時代の相楽・大河原発電所取水堰の完成、②戦後の拡大造林、③台風 13 号(S28)・伊勢湾台風(S34)、④ダム群の建設、⑤ほ場整備、⑥1960 年代後半からの住宅・工業団地、ゴルフ場開発、⑦外来種の侵入、が挙げられている。要因検討ではこれらの前後での検討が必要と考える。また、これにより、今後の課題を明確にできると考える。
- (2) 河川環境の変遷・特徴について
  - a. ダムによる流況への影響を検討する場合、ダム流入とダム放流の比較が必要である。
  - b. ダムのみでなく、自然による攪乱の変化については、変化が見出せるかどうか、本川下流域、三川合流までの間で時間流量等を用いて整理してみる価値がある。例えば 100m<sup>3</sup>/s を越える頻度に着眼するなどが考えられる。
  - c. 河床変動は、縦断面のみでなく変動幅で整理し、並べて検討することが良いと考える。

- d. 河床変動に関して、木津川 53km 地点の河床低下原因について確認を行うものとする。
- e. ダム下流等、河床低下区間で、それに伴い瀬・淵構造、砂州状況がどう変わったか整理することも良いと考える。
- f. 砂防工事によって、土砂の流出がどれだけ軽減されたかということについて、もう少し追求して頂ければと考える。

### (3) 生物の多様性について

- a. 「貴重種」という表記ではなく、定義を明確にしたうえで「希少種」を使用することがよい。
- b. 生き物の分布の濃淡が、何に原因しているかという分析を行って行くことが必要である。理想的には生息地評価モデル(HIS、HEP、等)により、改善・管理手法を検討していくことが望ましいが、新たなデータの取得整備が必要となる。今出来ることとして、既存のデータより、定量的に物理環境と生物の種類、あるいは、個体数といった関係の関連を検討していくことを提案する。
- c. 将来目標として、例えば、砂河原への復元を考えるような場合、トータルとして種数をたくさん残す方向が良いのか、あるいは、特定のものの数が増える方向が良いのか、細かい場所ごとに考えていかないと仕方がないという印象を受けた。
- d. 河道内の植生や、樹林化のコントロールを問題とするとき、木津川上流の貴重種として何に着目していくのか、洗い直しが必要と考える。
- e. 古い時期の生物調査データについて、川上委員よりデータの提供を頂くとともに、ダム関係の環境調査データがあると思われるので、それを取り込んで更なる資料の充実を図るものとする。
- f. 河道条件と生息生物の関連では、蛇行区間を一つの単位として想定し、その中で瀬・淵がどのような形で分布しているかということが多分大事だろうと思う。

### (4) 課題について

- a. 課題のポイントはある程度出てきていると考えるが、目標を設定していくときに、どこから議論を始めるかが問題である。ただ、木津川の特長は、やはり砂河川であることであり、それが単調化し結果として生物環境も変化してきたのだとすれば、現状から変えられるところから、少し変えていくといった目標設定が出来るのではないかと考える。
- b. 河道内の砂州など、土砂の水質への寄与といった捉え方ができると、木津川としての特長が出せるのではないかと考える。
- c. 以前いた種がいなくなった等の事実があれば、何がそれに原因したのかを考え、生息に必要な場の復元を考える、残していくといった考え方で、目標を検討していくことが近道であろう。
- d. 水量、水質、河道状況の変化に係わるのは、木津川ではやはりダムであると認識しており、その弾力運用による改善手法を考えていくことが必要である。

## 5. その他

### (1) 連絡事項

次回第 14 回環境研究会を、名張において 15:00～で予定する。

詳細については後日、ご案内をさせて頂くものとする。

## 6. 閉 会

以 上